



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう)

第20号

学校教育目標 「たくましい心と体もち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬

明日、第55回いちょう祭開幕！



藤井鈴音さんの最優秀作品を筆頭に全校生徒のポスターが生徒玄関に掲示され、第55回いちょう祭の開幕が近づいていることを実感します。すべてのポスターには、テーマである“繫承”の二文字と“9月17日（金）”という本来の開催日が記されています。今、振り返れば、9月17日は分散登校から通常登校に戻ったばかりの間もない時期で、様々な活動が制限されていました。それ故、1ヶ月以上先送りすることを決め明日を迎えることになりましたが、毎日の取り組みを積み重ねて本番を迎える今回のいちょう祭こそ私たちが求めるいちょう祭であり、3年生から1・2年生に“繫承”すべき本当の姿ではないかと思えます。



そして、最も“繫承”すべきは、いちょう祭に込められた「想い」です。ソーランや応援といった南西中の文化や伝統そのものを“繫承”することはもちろん大切ですが、それらをより良いものにするためにみんなで取り組む、みんなで力を合わせる、みんなで頑張ることによりいちょう祭の楽しさがあり、いちょう祭の良さがあり、いちょう祭での新たな発見があるという「想い」をしっかりと伝えてほしいと思っています。

緑学年をリーダーに赤学年と青学年の3つの学年が一つになった今の南西中であれば、その実現は可能です。今日までの2週間の取り組みを振り返って見ても、明日は皆さんの「想い」がたくさん詰まったいちょう祭が展開されるものと確信していますし、楽しみにもしています。

最後に、八木重吉さんの『運動会』という詩を紹介します。

君たちの かいっぱいやる演技が見たい
感動を呼ぶ ひたむきで まじめな姿が見たい

自分をごまかさず あまやかさず
正々堂々と 最後まで やり抜く姿は美しい



強くなくてもいい 速くなくてもいい 上手でなくてもいい
そして 負けてもいい

しかし 絶対に許せないのは 中途半端なやり方とずるい根性
全体の美を 損ねる行為である



コロナ禍でもしっかり小中連携！



10月には小学校の陸上記録会が実施されることから、例年ですとこの時期、小学校に出向いて行って陸上部による指導と応援委員会による応援披露を行っています。いずれも小中連携のメイン活動ですので今年も実施したかったところですが、コロナ禍ということもあって直接の指導や披露で感染につながるようなことがあってはならないと、やむなく中止としました。しかし、応援については録画したものを6年生に観てもらうことで南西中からの想いを伝えたいと提案したところ、石田小・国母小で快く受け入れてくださり、過日、両小学校に“ビデオによる応援メッセージ”を届けました。

中学校の方では、ちょうどいちょう祭に向けて応援委員会が活動中でしたので、その合間を縫ってのビデオ撮りとなりました。応援委員会の子どもたちも意気に感じ、6年生に向けたメッセージを交えながら力強い応援を披露してくれました。

翌日、石田小の雨宮校長先生からこんなメールをいただきました。



石田小学校の雨宮です。今朝の全校TV放送で、南西中からの応援メッセージを流しました。迫力ある応援に、低学年児童は目を丸くして見ていました。たまたま来校していた保護者さんにも小中連携の様子を紹介できました。

お忙しい中にも関わらず、準備・練習・撮影をして戴いた先生方、また、応援の生徒さん方にもどうぞよろしくお伝えください。

先輩から気合いを入れられた6年生ですので、明日は自己ベストを叩き出す児童が続出すること間違いありません。小中連携の取組、心より感謝いたします。ありがとうございました。

また、国母小の中込校長先生からは、「心のこもった応援をありがとうございました。気持ちがとても伝わってきました。中学生の応援のお陰で3つの種目で1位を取ることができました。6年生がとても喜んでいただくと応援委員会の生徒に伝えてください。」と電話をいただきました。

今後も、小学生、中学生の双方にとって実り多い小中連携を継続していければと思います。



11月には、期末テストの学習強化週間中に行う「ノー・メディアデー day」の取り組みを、期間を同じくして石田小と国母小、さらには大國小と上条中を加えた5校で実施することになっています。行事や活動だけでなく日常生活においても小中連携が図られ、スマホやゲーム等へのかかわり方を通して自身の生活習慣を見直す機会となることを期待しています。